

C-76 婦人の下肢障害者における被服の実態について (2)
広島女子大 小池美枝子 安田女子短大 ○沼田鈴子

目的 下肢の障害による義肢の装着者は、正常な者に比して日常生活行動上に、大きな問題がある。障害者をとりかこむ環境を改善し、社会生活における不自由さを減することは、福祉面に重要なことである。住居、家具、交通機関については、その改良がとりあげられているが、最も身近な環境とみられる被服面の改善については、僅かな報告しかない。そこで婦人で3・4級の下肢障害者を対象に、その衣生活を調査し改善への手がかりを得たいと考えた。中・四国支部会において一部を報告したのでひき続き検討した結果を報告する。

方法 広島県下に在住の20歳以上の婦人義肢装着者のうち3・4級を対象に調査をおこなう。調査内容は義肢装具の装着状況について9項目、上衣、下衣の使用状況19項目、履物について7項目である。方法は面接法と郵送法とし、期間は昭和48年10月より昭和49年6月までとする。さらに日常生活に多く着用するスカートと、パンタロンの構造について改良をこころみ、着用観察をおこなう。

結果 調査対象66名中回収は35名である。衣生活調査からパンタロンの使用者が47%で、その構成の改良についての要望が多い。下腿部を切断した義肢装着者について、パンタロンを製作し、着用実験より、膝関節部位とパンタロンの接触状態による下肢運動機能への影響についての問題点をみいだした。すなわち衣服の構造と適切なゆとりをもつ被覆状態は、義肢装具の補助的役割をするということである。また義肢の改良点のいとぐちをみいたし、着心地のよい衣服条件の一部をまとめることができた。